第4問

次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。（配点　50）

A

聽雷霆於百里之外者、如鼓盆、望江河於千里之間者、如縈帶、以其相去之遠也。故居于千載之下而求之于千載之上、以相去之遠而不知有其變、則猶刻舟求劍。今之所求、非往者所失、而謂其刻在此、是所墜也。豈不惑乎。

（注1）ケバらいテイヲ

（注2）スルガヲメバ

（注3）キハまとフガヲテノヒル

B

（1）

今夫江戸者、世之所称名都大邑、冠(注5)蓋之所集、舟車之所湊、実為天下之大都会也。而其地之為名、訪之於古、未之聞。豈非古今相去日遠、而事物之変亦(イ)愈遠、事之相変愈多、求其所欲聞而不可得、亦猶今之於古也。

C

(2)

(注4)

(ア)在于其間耶。蓋知、後之於今、世之相去(ア)愈遠、事之相変愈多、求其所欲聞而不可得、亦猶今之於古也。

吾窃(ひそかニ)有レ感レ焉(これニ)。D(注6)『遺聞』之書、所ニ由(よりテ)作一(ルル)也。

（新井白石『白石先生遺文』による）

（注）

1 雷霆――雷鳴。

2 鼓レ盆――盆は酒などを入れる容器。それを太鼓のように叩(たた)くこと。

3 刻レ舟求レ剣――船で川を渡る途中、水中に剣を落とした人が、すぐ船べりに傷をつけ、船が停泊してからそれを目印に剣を探した故事。

4 大邑――大きな都市。

5 冠蓋――身分の高い人。

6 『遺聞』――筆者の著書『江関遺聞』を指す。

（下書き用紙）

国語の試験問題は次に続く。

問1 波線部(ア)「蓋」、(イ)「愈」のここでの読み方として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 29 ・ 30 。

(ア)「蓋」(75ページ) 29

① なんぞ
② はたして
③ まさに
④ すなはち
⑤ けだし

(イ)「愈」(75ページ) 30

① しばしば
② いよいよ
③ かへつて
④ はなはだ
⑤ すこぶる

問2 傍線部(1)「千載之上」・(2)「舟車之所レ湊」のここでの意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は **31** ・ **32** 。

(74ページ)

(1) 「千載之上」 **31**

① 高い地位
② 遠い過去
③ 重たい積み荷
④ 多くの書籍
⑤ はるかな未来

(75ページ)

(2) 「舟車之所レ湊」 **32**

① 軍勢が集まる拠点
② 荷物を積みおろしする港
③ 水陸の交通の要衝
④ 事故が多い交通の難所
⑤ 船頭や車夫の居住区

問3 74ページの傍線部A「聴二雷霆一於百里之外一者、如レ鼓レ盆、望二江河一於千里之間一者、如レ縈レ帯、以二其相去之遠一也」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **33** 。

① 聴覚と視覚とは別の感覚なので、「雷霆」は「百里」離れると小さく感じられるようになるが、「江河」は「千里」離れないとそうならないということ。

② 「百里」や「千里」ほども遠くから見聞きしているために、「雷霆」や「江河」のように本来は大きなものも、小さく感じられるということ。

③ 「百里」離れているか「千里」離れているかによって、「雷霆」や「江河」をどのくらい小さく感じるかの程度が違ってくるということ。

④ 「百里」や「千里」くらい遠い所にいるおかげで、「雷霆」や「江河」のように危険なものも、小さく感じられて怖くなくなるということ。

⑤ 空の高さと陸の広さとは違うので、「雷霆」は「百里」離れるとかすかにしか聞こえないが、「江河」は「千里」でもまだ少しは見えるということ。

問4 74ページの傍線部B「豈不レ惑乎」とあるが、筆者がそのように述べる理由は何か。「刻レ舟求レ剣」の故事に即した説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **34** 。

① 剣は水中でどんどん錆びていくのに、落とした時のままの剣を見つけ出せると決めてかかっているから。

② 船がどれくらいの距離を移動したかを調べもせずに、目印を頼りに剣を探し出せると思い込んでいるから。

③ 大切なのは剣を見つけることなのに、目印のつけ方が正しいかどうかばかりを議論しているから。

④ 目印にすっかり安心して、船が今停泊している場所と、剣を落とした場所との違いに気づいていないから。

⑤ 船が動いて場所が変われば、それに応じて新しい目印をつけるべきなのに、怠けてそれをしなかったから。

（下書き用紙）

国語の試験問題は次に続く。

問5 75ページの傍線部C「其 地 之 為 名、訪 之 於 古、未 之 聞」の返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **35**。

① 其 地 之 為レ名、訪レ之 於レ古、未二之 聞一
其の地の名を為(な)すに、之を訪ぬるに古(いにしへ)に於(お)いてするは、未だ之(ゆ)くを聞かず

② 其 地 之 為レ名、訪二之 於 古、未二之 聞一
其の地の名為(た)る、之を古に訪ぬるも、未だ之を聞かず

③ 其 地 之 為レ名、訪二之 於レ古、未レ之 聞
其の地の名を為すに、之きて古に於いて訪ぬるも、未だ之かざるを聞く

④ 其地之為レ名、訪二之於レ古、未二之聞一

其の地の名の為(ため)に、之きて古に於いて訪ぬるも、未だ之を聞かず

⑤ 其地之為レ名、訪二之於古、未レ之聞

其の地の名為る、之を古に訪ぬるも、未だ之かざるを聞く

問6 76ページの傍線部D「『遺聞』之書、所二由作一也」とあるが、『江関遺聞』が書かれた理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **36**。

① 江戸は大都市だが、昔から繁栄していたわけではなく、同様に、未来の江戸も今とは全く違った姿になっているはずなので、後世の人がそうした違いを越えて、事実を理解するための手助けをしたいと考えたから。

② 江戸は政治的・経済的な中心となっているが、今後も発展を続ける保証はないし、逆にさびれてしまうおそれさえあるので、これからの変化に備えて、今の江戸がどれほど繁栄しているかを記録に残したいと考えたから。

③ 江戸は経済面だけでなく、政治的にも重要な都市となったが、かつてはそうではなかったので、江戸の今と昔とを対比することで、江戸が大都市へと発展してきた過程をよりはっきり示したいと考えたから。

④　江戸は大都市のうえに変化が激しく、古い情報しか持たずに遠方からやってきた人は、行きたい場所を見つけるにも苦労するので、変化に対応した最新の江戸の情報を提供し、人々の役に立ちたいと考えたから。

⑤　江戸は大きく発展したが、その一方で昔の江戸の風情が失われてきており、しかもこの傾向は今後いっそう強まりそうなので、昔の江戸の様子を書き記すことで、古い風情を後世まで守り伝えたいと考えたから。